

用語解説

【ア行】

ICT [p.20、25、38]

情報や通信に関連する科学技術の総称。Information & Communication Technology の略称。

アウトカム [p.3、5]

施策・事業の実施により発生する効果・成果のこと。

アウトプット [p.3]

施策・事業において実施した事業量のこと。

移動率 [p.8]

特定の期間、場所における人口に対する転入・転出に伴う人口増減数の割合。本町の人口ビジョンにおける将来人口推計では、男女年齢階級区別に算出・設定している。

オンデマンド [p.24]

ユーザの要求があった際に、その要求に応じてサービスを提供する事をいう。公共交通の分野では、予約があった時のみ運行するなどダイヤやルートを固定しない運行方式をさす。

オンライン学習 [p.25]

教材等をデータ化し、インターネット上で閲覧、受講するシステム。パソコン等を利用できる環境であれば、時間や場所の制約がなく受講が可能であること、学習者の理解度や進捗などの確認ができるといったメリットがある。

【カ行】

キャリア教育 [p.26]

現在や将来を見据えることを目的として行われる教育のこと。学校教育におけるキャリア教育の場合、職業や技能、進路選択に関することのみでなく、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための能力全般の育成を指す。

ゲートウェイ型「道の駅」 [p.32、33]

「道の駅」が果たす役割が多様になるなか、来訪者がまず目指す目的地となり“地域の顔”として機能し、観光客など地域外から活力を呼びこむタイプの「道の駅」のこと。

健康寿命 [p.23]

日常的に介護を必要としないで、自立した生活ができる生存期間のこと。2013年(平成25年)の日本の健康寿命は、男性 71.19 歳(同年の平均寿命は 80.21 歳)、女性 74.21 歳(同 86.61

歳)であり、平均寿命との差は男性で約9年、女性で12年となっている(厚生労働科学研究班より)。

合計特殊出生率 [p.3、8、9、12、15、26]

人口統計上の指標で、15歳から49歳までの女性の年齢別出生率(母親の年齢別年間出生数÷年齢別女性人口)を合計したもの。一人の女性が一生の間に出産する平均の子どもの数に相当する。

交流人口 [p.16、17、20、30、38]

その地域を訪れ、一時的に滞在する人のこと。目的は通勤・通学、観光、買い物、スポーツなど様々である。「定住人口」に対する概念として用いられる。

コミュニティビジネス [p.24、29]

住民が主体となって、地域が抱える課題に対し、地域資源を活かしながらビジネス的な手法により解決しようとする事業のこと。

【サ行】

産・官・学・金・労・言 [p.4、39]

総合戦略を進めるうえで協力する団体のこと。「産」は産業界、「官」は地方公共団体や国の関係機関、「学」は大学等の高等教育機関、「金」は金融機関、「労」は労働団体、「言」はメディアを示す。

就業率 [p.14、26、27]

15歳以上の人口のうち、実際に働いている人の割合。

重要業績評価指標 (KPI) [p.3、5、21~23、25~30、40]

施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のこと。KPIはKey Performance Indicatorの略称。

生涯未婚率 [p.10]

50歳における未婚率のことで、「45~49歳」及び「50~54歳」の未婚率の平均値で算出する。

人口置換水準 [p.3、8]

人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準のこと。

スパイラルアップ [p.25、33]

改善が奏効しあい、螺旋を描くように継続的な改良・向上に結びつくこと。

生産年齢人口 [p.7、9]

国内の生産活動に就いている中核の労働力となる年齢の人口のことをいう。日本では15歳以上65歳未満の年齢に該当する人口が生産年齢人口である。

【タ行】

タブレット [p.25]

薄型・板状で、片側のほぼ全面が指で触れて操作できる液晶画面(タッチパネル)になっているコンピューターのこと。

地域センター型「道の駅」 [p.32]

「道の駅」が果たす役割が多様になるなか、産業振興や子育て、福祉、防災等の複合目的を兼ね備え、地域を支える拠点として機能するタイプの「道の駅」のこと。

ツーリズム [p.17]

一般に観光旅行のことであるが、物見遊山的な観光に対し、地域資源を活用した体験型の要素を含む観光の場合に用いる。

【ナ行】

二地域居住 [p.2]

都会に暮らす人が、農山漁村などの地域にも同時に生活拠点をもち、週末や一年のうちの一定期間を暮らすライフスタイルのこと。

【ハ行】

P D C A [p.1、5、39]

事業活動の管理を円滑に進める手法の一つで、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する取り組み。名称は、4段階の頭文字をつなげたもの。

ハブ [p.33]

様々なひと、ものなどを結びつけるネットワークの中心。名称の由来は「車輪の中心部」。

ペレット(木質ペレット) [p.29、30、31、34、35]

間伐材や、おが粉、かんな屑など製材副産物を圧縮成型した小粒の固形燃料のこと。ペレットストーブ、ペレットボイラーの燃料として用いられる。

【マ行】

まち・ひと・しごと創生法 [p.1、2、3]

少子高齢化の進展に対応し、人口の減少に歯止めをかけること、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保することを目的に2014年(平成26年)に成立した法律であり、都道府県と市町村に対し、地方版人口ビジョンと地方版総合戦略の策定を要請している。以下の、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的、一体的に推進する。

まち …… 国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める地域社会の形成

ひと …… 地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保

しごと…… 地域における魅力ある多様な就業の機会の創出

木質バイオマス [p.20、29、30、38]

樹木の伐採や造材したときに発生する枝・葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮やノコ屑、住宅の解体材や街路樹の剪定枝など、木材からなる再生可能な資源のこと。

モニタリング [p.40]

状態を把握するため、継続的、または定期的に観測・測定を行うこと。

【ヤ行】

有業率 [p.15、26]

15歳以上の人口のうち、ふだん収入を得ることを目的として仕事をしている者の割合。なお、調査時現在は休んでいるが仕事をもっている者も含まれる。

Uターン・Iターン [p.22]

Uターンは、出身地から進学や就職のため都市部に出た後、出身地に戻ることに。Iターンは、出身地にかかわらず、住みたい地域を選択し移り住むこと。

【ラ行】

六次産業化 [p.20、29、30、38]

第一次産業である農林水産業がその生産だけにとどまらず、それを原材料とした食品加工（第二次産業）、その流通・販売や観光農園、レストランなど地域資源を生かしたサービス提供（第三次）などまで一体的に行うこと。一次、二次、三次を足し算、または掛け算すると六になることが由来。

ライフステージ [p.17、21]

人間の一生において年齢にともなって変化する生活段階のこと。出生、就学、就職、結婚、出産、子育て、リタイアなど人生の節目によって変わる生活スタイルのこと。

流入人口 [p.28]

他の地域から、当該地域へ通勤・通学する人口。

【ワ行】

ワークライフバランス [p.17]

仕事と生活の調和のこと。仕事と生活のどちらかを選び、どちらかを犠牲にするのではなく、働く人が仕事上の責任を果たすと同時に、仕事以外の生活でやりたいこと、やらなくてはならないことに取り組める状態を目指す取り組みや考え方。



猪名川町地域創生総合戦略

発行年月／平成 28 年3月

発行／猪名川町

編集／猪名川町企画総務部企画財政課

〒666-0292 兵庫県川辺郡猪名川町上野字北畑 11-1

電話／072-766-0001(代表)

<http://www.town.inagawa.lg.jp/>